

Libido展鹿児島に思いをよせて…

僕は「やまなみ工房」で所長をさせていただいている山下完和といいます。何を隠そう、今回の鹿児島での展覧会開催をくわだてた言い出しっぺです。

「なぜ鹿児島なんですか？」展覧会の開催が決まった日からこれまで、たくさんの方に尋ねられました。言い出しっぺなのですから仕方ありません。今日は皆様に2つの理由を正直にお話しさせていただきます。

やまなみ工房には55名の利用者と20名のスタッフがいます。

僕は55名の利用者の皆さんにいつも「人として大切な事」を教えていただいています。そして、20名のスタッフの支えのおかげで所長をさせていただいています。どの人も僕にとって尊敬と信頼のおける大切な存在です。その中でスタッフの桐葉朋子さん、牧原里佳さんという方がいます。二人は今とても輝いています。彼女たちは福祉施設での経験も、社会人としての経験もまだ3年余りです。二人の周りにはいつも人が集まり笑顔が溢れます。特別な事をしてる訳ではありません。僕ややまなみの人達は、日常辛い事や困難な事があっても二人に支えられ頑張る気持ちになれるのです。二人の周りではたくさんの素晴らしい作品が生まれます。特別な指導をしている訳ではありません。そこにいただけなのです。

僕はいつも不思議に思っていました。その答えが最近ようやく分かりました。彼女達はその日、それぞれのがあるがままを認め、いつも優しく見守ってくれる。そしてどんな小さな事でも励ましてくれる。一人一人を曇りのないありったけの愛情で心から大切にしてくれるのです。

僕は二人がやまなみにいてくれる事に毎日とても感謝しています。そしていつしかその気持ち大きくなり、ある行動を起こさずにいられなくなりました。桐葉さんと牧原さん。二人のご両親の故郷は鹿児島県です。桐葉さん牧原さんの大切な人がたくさんいる二人の大切な場所「鹿児島県」。僕は、やまなみ工房の利用者の人間性や作品はもちろん、二人がやまなみにいるからこそ生まれる日常や、今のやまなみ工房の幸せをその鹿児島県で一人でも多くの方に伝えたい。それが自分の大切な職務の一つと考えたのです。

二つ目の理由、鹿児島県には素晴らしい文化や歴史とともに、「工房しょうぶ」があります。僕がこの仕事に就いて間もないころからその存在は大きく、独自の取り組みは目標とするところでした。いつか「工房しょうぶ」に行ってみたい、そして一緒に展覧会を実現したい。その想いは心の奥底で年々増すばかりでした。一人では自信が持てず、ずっと扉を開ける事が出来ませんでした。今回1つ目の理由が背中を押しようやくたどり着けたのです。

たくさんの方にご無理をお掛けいたしました。僕は言い出しっぺの責任を感じています。でも夢に見た鹿児島での展覧会が想像をはるかに超え、こんなに素晴らしい施設や作家の皆様とともに忘れる事の出来ない最高の展覧会として、「工房しょうぶ」の皆様をはじめ、多くの皆様のご支援ご協力の上にこの展覧会が実現できることに心から感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

6月、やまなみには地域の皆様と利用者やスタッフの触れ合いを大切にしたいとギャラリー-gufufが完成しました。

この1ヶ月で既に1,000人近くの方にお越しいただきました。

僕は今あることを考えています。

やまなみで働く全てのスタッフの故郷へ行き、みんなの楽しい日常を一人でも多くの方にお伝えすることが出来れば…

やまなみ工房
山下 完和

